

## 所 長 就 任 の ご あ い さ つ

沖縄県衛生環境研究所 所長 <sup>く だ か</sup>久高 <sup>じゅん</sup>潤



この度、令和 8 年 4 月 1 日付 けで沖縄県衛生環境研究所の所長に就任いたしました久高です。この場をお借りして、ご挨拶させていただきます。

### 研究所の使命と私の経験

私たち研究所は、終戦直後の 1946 年(昭和 21 年)に沖縄中央病院(現在の県立中部病院)内に「沖縄中央衛生試験所」として設立されました。今年で創立 80 年を迎えた、長い歴史を持つ研究所です。

その間、私たちは、沖縄県が直面する様々な保健衛生や環境保全の課題について、本庁や保健所等の行政機関及び大学や国の研究機関等と連携して取り組み、県民の皆様の健康と安全、そして美しい環境を守るための重要な役割を担ってきました。今も科学的な視点と専門技術で、沖縄の暮らしを守る「中核機関」として活動しています。

私自身も、1993 年(平成 5 年)から 2017 年(平成 29 年)までの 24 年間、この研究所で感染症や食中毒の調査研究など行う「研究員」として現場に携わってきました。その後は、本庁で感染症や食品の安全、水道行政に、また保健所では、環境保全や廃棄物対策など、県民の皆さんの生活に密接に関わる行政の最前線を経験してきました。これら「現場」と「行政」の両方で培った知識と経験を活かし、沖縄全体の状況を幅広く見ながら、この研究所の運営に全力を尽くす覚悟です。

### 沖縄が抱える特有の課題への取り組み

私たち研究所は、他の都道府県の衛生環境研究所と同様に、感染症の原因となる病原体の検査、食中毒の原因究明、食品に含まれる有害物質の検査、水や大気の監視、そしてこれらのリスクを未然に防ぐための研究や情報提供を行っています。しかし、沖縄県には、その地理的・歴史的背景から、他の地域とは異なる特有の課題が存在するためその対策にも取り組んでいます。

地域保健対策においては、野生動物が保菌し、水辺のレジャーなどで感染する「レプトスピラ」のような病気や、熱帯・亜熱帯のサンゴ礁域に生息する魚による「シガテラ食中毒」の原因を迅速に特定すること。また、多くの修学旅行生や国内外からの観光客を迎える「観光地・沖縄」として、集団食中毒を防ぐことや、観光客増加に伴う健康面での緊急事態への対応を強化することに加え、ハブやハブクラゲなど、亜熱帯地域ならではの危険な生物による健康被害を防ぐための科学的な知見に基づく対策は、今でも本県特有の課題です。加えて、県内の特定検診やがん患者の情報を収集し分析する調査は、かつて「長寿県」として知られた沖縄の健康を取り戻すための対策に役立てられています。

環境分野においては、米軍基地周辺における「有機フッ素化合物(PFAS)」に関する調査・分析や、原子力艦寄港時の放射能調査・監視を行っています。また、地球温暖化による海水温の上昇に加えて、陸域からの赤土等の流出や水質汚染など、様々な要因で深刻な危機に瀕しているサンゴ礁生態系の保全は喫緊の課題です。

### 今後の研究所の活動と組織の強化

これらの課題を解決し、研究所の使命を果たすため、私たちは保健所や本庁、国や大学の研究機関、医療機関等と緊密に連携し、研究所の基本的な役割である「試験検査」「調査研究」「研修教育」「情報の収集・解析・提供」をさらに高度化していきます。

特に、新型コロナウイルス感染症のような、地域で急速に広がる新たな感染症や食中毒などの健康危機、あるいは県民の健康に被害をもたらす環境汚染問題に対しては、公的な研究機関として迅速に対応できる体制を維持し、検査の精度向上や、それを支える技術開発に繋がる調査研究体制を強化することで、危機の発生に即応できる組織づくりを進めてまいります。

所員一同、「プロフェッショナル」としての誇りと使命感を持ち、県民の皆さんの健康と安全、そして美しい自然環境を守り、次の世代に引き継ぐために、地域保健及び環境保全に関する調査研究を強力に進めていきます。今後とも、私たちの活動にご理解とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。